

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第2区分

【発行日】令和2年2月20日(2020.2.20)

【公表番号】特表2017-537668(P2017-537668A)

【公表日】平成29年12月21日(2017.12.21)

【年通号数】公開・登録公報2017-049

【出願番号】特願2017-517731(P2017-517731)

【国際特許分類】

A 4 5 D 34/00 (2006.01)

B 6 5 D 45/20 (2006.01)

【F I】

A 4 5 D 34/00 5 1 0 A

B 6 5 D 45/20

【誤訳訂正書】

【提出日】令和2年1月7日(2020.1.7)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 5 7

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 5 7】

たとえば、ベースは、少なくとも1つの結合部材が、蓋がベース上にある状態で第1の位置にあるとき、蓋の結合プレートがベースに対して正しい位置に置かれていることを保つように構成された少なくとも1つのリブを備える。

【誤訳訂正2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 9 4

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 9 4】

支持体400は、キャップ5に向かって正しい位置に置かれるように適合された上側面401と、上側面401に対して平行であり、ベース2に向かって正しい位置に置かれるように適合された下側面402(図11に見ることができる)とを備えると、ここでは考えられる。

【誤訳訂正3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 1 1 6

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 1 1 6】

各々の結合部材410は、爪411および戻りアーム412を備える。この例の実施形態では、爪411および戻りアーム412は、支持体400の中心に向かって正しい位置に置かれながら結合部材410の背部壁413の同じ面から延びる。換言すれば、各々の戻りアーム412は、たとえば支持体400の半径に沿って延びる。結合部材410は、したがって、支持体400の縁を取り囲んで、C形状にされる。戻りアーム412は、ここではたとえば、指形状にされ、自由端部と、背部壁413にリンクされた端部とを備える。

【誤訳訂正4】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 1 3 7

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 1 3 7】

静止位置では、少なくとも1つの爪411は、くぼみ202内に係合される。キャップ5および結合プレート4は、互いに対しても正しい位置に置かれ、それにより、軸方向カム504の少なくとも1つの突出活性ゾーン505は、各々の結合部材410の戻りアーム412が高位置になるように、少なくとも1つの結合戻り部材416に対して配置される。換言すれば、軸方向カム504の少なくとも1つの突出活性ゾーン505は、少なくとも1つの結合戻り部材416の変形を引き起こさず、または少なくとも爪411をくぼみ202から離すには不十分な変形しか引き起こさない。結合戻り部材416、ならびにキャップ5を静止位置配向になるように結合プレート4に対して自動的に戻すように働く位置戻り部材407は、次いで、最小の変形の自然な、中立の構成にある。結合戻り部材416が2つの波形座金を備える図10に表される場合では、軸方向カム504の突出活性ゾーン505の各々の頂点は、次いで、上側波形座金のトラフ418と向かい合っており、下側座金の隆起部の反対側にある。キャップ5が示されない図4では、結合戻り部材416は、単一の波形座金を備え、軸方向カム504の突出活性ゾーン505の各々の頂点は、このとき波形座金のトラフ418と向かい合っている。

【誤訳訂正5】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 1 4 1

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 1 4 1】

所定の圧縮は、キャップ5と結合プレート4の間の所定の回転角度、および戻りアーム412の所定の降下に対応する。この例の実施形態では、突出活性ゾーン505の頂点は、キャップ5が静止位置に対して約45°回転するたびに波形座金の隆起部417の頂点に到達する。したがって、小さくなり得る所定の圧縮に対して、回転角度は、たとえば0°から45°の間に含まれる。したがって、所定の圧縮は、たとえば、結合プレート4に対して、40°、またはさらに30°、またはたとえば好ましくは15°の回転をキャップ5に与えることが必要であるように固定され得る。プレート4に対するキャップ5の回転は、ベース2上に正しい位置に置かれたプレート4を維持することに寄与する、ベース2のネック部上のシール接着によってより一層容易にされる。各々の結合部材410は、次いで、傾斜運動を有し、すなわち戻りアーム412の自由端部は、対応する量だけ下がられ、爪411はくぼみ202から離れる。